

「アレルギーの臨床」に寄せる — 921 — 矢追インパクト療法 (YIT) による 姿勢の矯正 【矢追インパクト療法】

東京渋谷 山脇診療所
山脇 昂

第 32 回保団連医療研究フォーラム
(2017/10/9 名古屋) で発表した骨子

【目的】

年を取ってくると、骨の脆弱化により、骨粗鬆症や圧迫骨折・脊柱管狭窄症等次第に円背・後弯・亀背・側弯等になってくる。骨より筋力の衰え sarcopenia による frailty である。今日本で最大の問題であるフレイルを積極的に矯正する手段はない。従って保険収載による点数化などももちろん存在しない。でもこれらを矯正すれば諸臓器の圧迫がとれ、呼吸の苦しさ・肩こり・腰痛・諸関節痛から解放され、歩行が楽になり、色々な疾患から解放される。医療界は今日全て個々の専門分野に区切られ、その専門医なるものにのみ注目の的が絞られる傾向にある。YIT は減感作療法としてアトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・喘息等に 4～6 個皮内注射するのは保険も通る。例えば保険は通らないが、関節リウマチの方に、その罹患関節上に数回皮内注射すると、疼痛・炎症・腫脹等に俾効がある。関節痛とか筋肉痛等筋弱力化、それら全ての治療の代表として姿勢の矯正を選んだ。現在行われている色々な治療とは隔絶

している。それは皮内注射の沁みる痛みが全身に広がって、筋肉にも伝わりそれを刺激して筋肉中の脂肪酸を燃焼させ、体温が 0℃～1.0℃ 上昇する。運動を遣っているのと同じ状態になる。従って運動の代替療法になる。夜は疲労で良く寝れるようになり、肩こりを訴えて来た複数女性が、其の夜「私熟睡ではなく、爆睡しました。」と言う。糖尿病にも良く効く。まず血中中性脂肪が漸減して行き、3 か月後には HbA1c も減少する。インシュリン注射では考え難い。これらの現象が若返り効果を齎す。私の遣っている治療はあくまでも患者さん相手であるから FBM (Fact Based Medicine) である。この治療は骨を直接治療するのではなく、軟部組織 (脂肪) を刺激し、筋肉を刺激し、筋肉中の脂肪酸を燃焼させ、筋力を回復する刺激なのである。筋力を回復すれば、骨・関節への負担が減り、疼痛も軽減し、椎骨等も自然にある程度は復旧して来る。骨粗鬆症の点滴療法では、このように器用にはいかない。

【方法】

25 年以上前から故矢追博美先生 (平成 27 年 2 月没) が現在行われている減感作療法の、長期間を要し、効果のなさ、薄さ、危険性を無くすべく、かつもっと効果的たらんと、現に使用できる数種アレルギーエキスを、アレルギー希釈液 (鳥居) を用いて、10 億倍～1 兆倍等に超微希釈し、皮膚浅層 (皮内) に 0.01～0.05 cc 注射を数個～数十個 直径 4～5mm 程度のクワデルを作るだけの簡単な療法である。

【結果】

1種の焼灼療法であり、基礎体温が0～1℃上昇し、大人の疼痛性関節疾患等色々な病気に効く。姿勢の矯正は色々な疾患の代表であり、数症例を提示する。具体的にはPower Pointでの説明だったのですが、誌上ではプライバシーを重んじ説明だけとします。1例目は一般的な後弯の直前・直後である。3・4例目は体幹傾斜の前後像である。名古屋フォレストクリニック河野和彦先生もグルタチオン大量点滴で体幹傾斜を持つ歩行障害をなおされている。5例目は円背を矯正した前後像である。着ている白色の毛糸の色合いが違っていることである。インパクト療法後は体が温かくなるので着ている物の色合いが変化する。6例目も姿勢が矯正され、血色が変化し、着ている上着・ズボンとも色に変化している。この人は《私は元々こうだった》と言ってさっさと帰っていった。姿勢が治ると、歩きやすくなるので、こういうことが起きる。7例目はあたかも財布の様に折れ曲がった腰の状態と奥さんが手を引いて連れてきた。都立病院の整形外科に入院している人。余りに背中が曲がっているため、ベッドに腹這いでできない。座ったままで背広を捲き上げて、背中に遣った。前後で横幅も違し、背広の色も違った。冬から5月になり少し腰が伸びるようになったが、まだ不安で手で股関節部を支えている。又冬になる頃には、背は真直ぐになった。8例目は円背と後弯の二瘤ラクダのような状態だったと本人が言う。前後で姿勢が少し正され、着物の色が変わった。本人が言う

には入浴時手拭いが後弯部に引っかかってしょうがなかったがなくなったと言う。1年後には円背もだいぶ矯正されている。全身浮腫んでいて特に下肢の浮腫みが強かったが消えた。多分腎機能が回復した。前般はそんなことは考えていないから測定していないが、後半部分だけBUNとクレアチニンを測定した。BUNは40以上から24へ、クレアチニンは2.4から1.6に改善していた。9例目も前後で着物の色が変わった。約2年後には円背も矯正されたが、頭髪が増え、染めなくともよくなり、あたかもモーツアルトのようになった。10例目は小学6年生で、歩けなくなり6か月間学校に行っていない。その間都立の医療センターであらゆる検査をやったが原因がわからなく治療されていない。YITを3回やったら、問題なく歩けるようになった。11例目は若い女性のジグザグ姿勢がいつまで矯正され、着ている物の色合いも変わった。12例目はお年寄りの首たれ病(首下がり病)である。筋無力症によるものと思うが、瞬く間に矯正された。眼瞼下垂も同様に挙上できる。もちろん筋力は次第に弱ってくるので、継続的に治療が必要である。13例目は若い娘さんがクローン病で入院し、長期間ステロイドホルモンを使用し、背むし状に曲がった。これも瞬時に矯正された。14例目は何かアレルギーのある方でしたが、3か月やったらこんなに美人に代わった。15例目は旦那が医者嫌いで、食道癌なのに点滴も薬の服用も一切拒否するので、YITだけやれと言って死ぬまで1年間やった。その奥さんが私もお相伴しますと言ひ、1年間やった。奥さんは高中性脂肪

血症で400ぐらいあった。旦那さんは死亡したが、奥さんは皮膚の色が白くなり、目がパッチリし、若々しくなった。中性脂肪値も正常値になった。この療法はこの様に中性脂肪を薬剤のように尿や便に出し横流しする療法ではなく、生理的に体内で燃焼させる。元に戻す・若い方へ戻す療法である。

【考察】

この作用は人間には不利益反応と考えられているアナフィラキシー反応を起こす神経軸索反射を、アナフィラキシーを起こさない程度まで超微希釈により逆利用し、heterogeneous物質（グリセリンと抗原）のantidromic（逆走）刺激による体温上昇（筋肉中の脂肪酸の燃焼）による。脂肪組織を刺激し血中アデポネクチンが上昇し、筋刺激により筋収縮が起こりATPキナーゼ活性化→アセチルCoAカルボキシラーゼ活性阻害→脂肪酸の燃焼によるATPエネルギーの産生が起こり、体は温かくなるものと思う。糖を燃焼させる糖輸送担体GRUT4とは別のルートで、産生エネルギーも多い。筋肉中の脂肪酸が燃焼し基礎体温が上昇すると、色々な体の変化が起こる。HSP（Heat Shock Protein）が生じ又増加する。体中のあらゆる組織を修復して行く分子シャ

ペロン（召使）となり、これが抗酸化作用をする。1例として盛り上がった瘢痕組織等も治癒に導く。生体は“適度な刺激”を“適度な間隔”で“繰り返し受ける”ことで、自ら健全な心身の状態を維持増進することができる。この療法直後より患者さんのリラクゼーションがもたらされ、アセチルコリン、アドレナリン、ノルアドレナリン、セロトニン、ドーパミン、DHEA-Sなどの神経伝達脈管作動性物 Neuro Transmit Vasculo Activator（NTVA）が短時間に増加する矢追インパクト療法充電理論 Yaoi Impact Charging Theory（YICT）を唱えた、故矢追博美先生は私費2億円を投入し、これらサイトカインの産生増加を証明した。この療法を定期的にやっていると血中TGが漸減し、皮膚がきめ細かく、女性では白くなって行く。爪の伸びや毛髪の伸びの速さから見ても、TGの生理的燃焼は、内服薬によるTGの尿や便への横流し療法ではなく、抗酸化・若返りを齎す。1週間毎にやっていると、糖尿病の人では3か月後にはHbA1cが減少します。反対に血中TG不足レベルの人ではストーブの空焚き状となり疲労疲弊感を齎す。世界中でこんな単純な方法で老化性筋無力症や関節リュウマチ等迄、抗酸化作用により、元に戻す方法は未だ世界的に見ても発表されていないと思う。

